

### 3-3. 将来都市構造の検討

#### 3-3-1 拠点の検討

##### (1) 拠点の候補

- 本市においては、平成 15 年に策定した北九州市都市計画マスタープランにおいて「街なか」を重視したまちづくりへの移行を強く打ち出すなど、上位計画において拠点となる地区の選択を既に進めてきた経緯を有しています。
- 蓄積したストックの活用を図るとともに、政策の継続性を踏まえ、現行の上位計画（「元気発進!北九州」プラン、北九州市都市計画マスタープラン及び都市計画区域マスタープランにおいて位置付けられた拠点を、拠点候補とします。



1) 上位計画等からみた各拠点に期待される役割

「元気発進！北九州」プランをはじめとした上位・関連計画における各拠点候補の位置づけは下表のとおり整理されます。

▼ 上位計画等における各拠点の位置づけ①

	上位計画				関連計画							今後の動向 に関する プロジェクト			
	「元気発進！ 北九州」プラン (H20.12) (H25 改定)	北九州市都市計画マスタープラン		都市計画区域 マスタープラン (H23.4.25 告示)	北九州市 都市再開発の方針 (H13)	中心市街地活性化基本計画 (新)	中心市街地活性化基本計画 (旧)				都市再生整備計画		個別計画等		
		全体構想 「将来都市 構造」	地域別構想「目標とする都市の構 造」より				対象	集積 要件	趨勢 要件	広域 効果 要件				位置づけ	
小倉 都心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地が高度に利用、さまざまな都市機能が集積、交通結節拠点</li> <li>・本市の発展の核だけでなく、200万人規模の北九州都市圏の中核</li> <li>・厳しい都市間競争の中で、都市イメージを決定づける</li> </ul>	都心・副都心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人、もの、情報の交流の中から、新たな都市文化と産業が育まれるよう、北九州都市圏の交流拠点、また広域的、国際的な交流拠点にふさわしい都市機能の強化を進める。</li> <li>・小倉駅北口地区において、北九州国際会議場、西日本総合展示場などの国際的なコンベンション機能を活かして、北九州市の国際交流を先導する拠点到ふさわしい、魅力あるまちづくりを進める。</li> </ul>	広域拠点	都心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・200万都市圏の中核であり、また、活力と魅力ある北九州市の都心として、土地の高度利用を図るとともに、商業・業務・文化・情報・サービス等の都市機能の強化・拡充と、都市型住宅の供給による都心居住の増加を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州広域都市圏の中核</li> <li>・北部九州の玄関口</li> <li>・圏域全体の発展をリードする拠点</li> <li>・広域交流都心・文化発信都心・活力創出都心・ネットワーク都心</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市の中心地区</li> <li>・商業面、公共公益面ともに拠点性が極めて高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[小倉都心地区]</li> <li>・北九州200万都市圏の都心として、次世代にむ向けた都市圏の発展を先導していく、躍動的で魅力豊かなまち</li> <li>・個性的な魅力により多くの人を惹きつける、賑わいのある都心。</li> <li>・まち全体への賑わいの面的な拡大。</li> <li>・昼間人口の増加等によるまちの活力。</li> <li>・様々な交通手段により、都心部に円滑にアクセス可能な交通環境。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「都心集客アクションプラン(H27 一部改定)」(都心集客アクションプランを積極的に推進することにより、都心部のにぎわいを創出し、集客交流産業の活性化の成功事例を市内他地域への波及を図ること、市全体のにぎわい創出につなげる。平成 29 年オープン予定の“スタジアム”の建設と相まって、新幹線口エリアの集客対策を強化し、そこに集まった人たちが商店街などに回遊してもらう仕組みを作る。)</li> <li>「小倉駅新幹線口地区整備構想(H27 改定)」(コンベンションゾーン、シンボルゾーン、アメニティゾーン(医療・福祉)、ウォーターフロントゾーン(大規模未利用地の有効活用、緑地整備)、ワーク・ライフゾーン(住宅機能の追加)、アクティブゾーン(新設:スタジアム等))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉駅北口(スタジアム、港湾計画)</li> <li>・臨海部魅力創出事業(砂津地区)</li> </ul>
黒崎 副都心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉都心との集積度に違いはあるが、本市の西部において、市域外に及ぶ広域集客拠点</li> </ul>	都心・副都心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州都市圏西部の中核として、公共施設、生活サービス施設、商業・業務施設、文化施設、都市型住宅など、高次の都市機能の集積を図る。</li> </ul>	広域拠点	副都心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活気ある副都心の形成のため、交通結節機能、商業業務機能の強化・拡充を図るとともに、病院跡地等において、文化・交流拠点の整備を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市西部地域の拠点として高次都市機能が集積し、小倉都心地区と対極をなす都市核</li> <li>・北九州広域都市圏の西部の中核として、広域交通の要衝となり、遠賀・中間地域を含む圏域の発展を支える拠点</li> <li>・人のふれあいを大切にする商業活動、歴史的な文化や自然が醸し出すやすらぎを感じる居住環境の形成、文化・交流等の複合的な都市機能の集積などを促進</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>[黒崎副都心地区]</li> <li>・北九州西部都市圏の中核として、複合的な都市機能集積や快適な生活空間の形成を図ることにより、副都心部の賑わいを推進。</li> <li>・北九州西部都市圏の広域ニーズに対応した高次な都市機能とともに、周辺生活圏の暮らしを支援する機能を充実</li> <li>・都市圏広域からの本地区への来街者の利便性の向上のため、高次な交通結節機能や交通ネットワークを形成。</li> <li>・企業遊休地等における住宅建設及び快適なアメニティ空間形成により地区外からの居住を促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「黒崎再生 10 年計画(H13)」(広域交流回遊(ネットワーク)舞台都市、集客機能の強化、交通アクセス機能の強化、文化の振興、都心居住の推進、健康・福祉の充実、情報発・受信機能の強化)</li> </ul>		

▼ 上位計画等における各拠点の位置づけ②

	上位計画					関連計画										今後の動向 に関する プロジェクト
	「元気発進！ 北九州」プラン (H20.12) (H25 改定)		北九州市都市計画マスタープラン		都市計画区域 マスタープラン	北九州市 都市再開発の方針 (H13)	中心市街地活性化基本計画 (新)	中心市街地活性化基本計画 (旧)					都市再生整備計画	個別計画等		
	全体構想 「将来都市 構造」	地域別構想「目標とする都市の構 造」より	(H23.4.25 告示)		対象			集積 要件	趨勢 要件	広域 効果 要件	位置づけ					
門司港	主な生活支援拠点	・門司港レトロにある各 各地区で回遊できる環境 づくりを進めることにより、 滞在の長期化を図り、 <b>国内 外からの観光客を増やす。</b>	地域拠点	・門司駅及び門司港駅周辺を 地域拠点として位置づけ、 <b>区 の誰もが利用しやすい生活支 援機能、文化・交流機能など の充実や、区外からも多くの 人が訪れて楽しむことができる 魅力的な賑わい空間の形成を 図る。</b> ・門司港レトロ地区と和布刈地 区を核としながら中心市街地 を <b>広域観光拠点</b> として位置づ け、北九州市における <b>代表 的な観光地</b> として、街なか 観光拠点の機能充実に進め ていく。	広域 拠点	地区 拠点	・港町としての歴史とウォ ーターフロントを活かした <b>魅力的観光拠点の形成</b> を 図るとともに、 <b>商店街の活 性化及び市街地の再生</b> を 図る。							・旧門司市の中心 ・商業活動、公共公益機 能面での集積	[門司港地区] ・ <b>芸術・文化振興にも結び つくグレードの高い都市空 間</b> を創出することにより、 新たなイベントの開催や 観光資源の発掘を促進し、 門司港地区の更なる活 性化を図る。 ・既存施設を利活用による <b>芸術・文化情報発信拠点</b> の整備。 ・ <b>歴史的建造物や特徴的な 意匠を持つ観光施設を活 かした関門地区での景観 づくり。</b>	・公共施設 再配置モデル 地区
門司	主な生活支援拠点	・おしゃれな住宅の建設 により、 <b>多様な世代が住 む新しいまち</b> を形成し、 <b>既 存市街地と一体</b> となること でコミュニティを活発に。	地域拠点	・門司駅及び門司港駅周辺 を地域拠点として位置づけ、 <b>区誰もが利用しやすい生活 支援機能、文化・交流機能 などの充実や、区外からも 多くの人が訪れて楽しむこ とができる魅力的な賑わい 空間の形成</b> を図る。	広域 拠点	地区 拠点	・鉄道跡地や企業跡地を有 効に活用し、 <b>門司区の中心 核にふさわしい海峡観光 の拠点</b> を形成するとともに、 <b>既存商店街の活性化、お よび市街地の再生</b> を図る。							・門司港地区と同様に旧 門司市の中心 ・商業活動、公共公益機 能面での集積	「大里本町土地区画整理事業 誌」 ( <b>地域中心核の形成、東西 都市軸上の他拠点地区との 連携による相乗効果(小倉 都心、門司港)</b> 、新門司 方面への起点、小倉や下関 への通勤圏、わたせせい ぞうプロジェクト) 「北九州市の住宅市街地 総合整備事業(H18)」 (大里本町地区(JR 門司 駅に隣接する立地条件を活 かした都心居住の定着、 既成市街地との機能分担 を図りながら、駅を中心 とした商業、業務、住宅 の調和のとれた魅力ある 文化性の高い地区整備))	・公共施設 再配置モデル 地区
城野	主な生活支援拠点	・城野ゼロカーボン先 進地区では、 <b>環境未来 都市にふさわしいまち づくり</b> に取り組む。 ・ <b>交通の拠点性</b> を活か した便利で暮らしやすい まち	地域拠点	・ <b>交通の拠点性</b> を活かし、 <b>生活支援機能が充実</b> して 便利で暮らしやすく、また 多くの人が住むことができ る。 ・商業、業務、その他生活 支援機能、文化・交流機能 などの <b>集積を維持・強化 する生活支援拠点</b>	広域 拠点	地区 拠点	・ <b>都心を支える地区</b> として、 既存商店街や沿道商業の 活性化、市街地の再整備 や、 <b>職住近接型の市街地 住宅の供給</b> による人口定 住を目指す。							[城野駅南地区] ・公共施設等が集積する 城野駅南地区の魅力を高 め、誰もが安心して快適 に生活できる文化的で質 の高いまちづくりを推進。 ・図書館の建設、総合療 育センター及び特別支援 学校の移転整備	「城野駅周辺地区整備構 想(H17)」 ( <b>都市のフリンジ</b> 、北九 州市を構成するエクス 型都市軸のひとつである 生活文化軸上に位置、 都心・副都心に次ぐ <b>地 域拠点(地域拠点核の一 つ)</b> ) 「城野駅北プロジェクト コンセプトブック(H27)」 (駅からのデッキを降り たらすぐまの入口、 <b>タ ウンマネジメントによる 参加型のまちづくり、 タウンセキュリティ・ グリーンマネジメント・ エネルギーマネジメント</b> )	・城野ゼロ カーボン先 進街区
徳力・守恒	主な生活支援拠点		地域拠点	・商業、業務、その他生活 支援機能、文化・交流機能 などの <b>集積を維持・強化 する生活支援拠点</b>	拠点										「徳力土地区画整理事業 誌 H11)」 (ルネッサンス構想にお ける <b>東部郊外型住宅ゾ ーン</b> 形成の重要な一翼、 国道 322 号交通渋滞緩和 (後にはモノレールも)、 志井川氾濫による浸水 解消)	
下曽根	主な生活支援拠点	・ <b>交通の拠点性</b> を活か した便利で暮らしやすい まち	地域拠点	・商業、業務、その他生活 支援機能、文化・交流機能 などの <b>集積を維持・強化 する生活支援拠点</b>	広域 拠点	地区 拠点									「下曽根駅南口まちづく りの記録(H8)」(北九州 <b>南東部の都市核</b> 、にぎ わいと語らいのあるまち づくり)	・北九州 空港跡地 産業団地
若松	主な生活支援拠点	・高齢化が進む中心市 街地では、生活支援機能 を高め、公共交通の利便 性向上を図り「 <b>歩いて 便利に暮らせるまちづく り</b> 」に取り組む	地域拠点	・中心市街地を地域拠点 として位置づけ、再生を 進めていく。 ・ <b>新しい時代にふさわ しい地域拠点として、区 内全域から、そして区 外からも多くの人が訪 れて楽しむことができるよ うに、生活支援機能の充 実や、若松の顔となるに ぎわい空間の形成を進 めていく。</b>	広域 拠点	地区 拠点	・ <b>若松区の中心核</b> として ふさわしい <b>商業・業務機 能を中心とした海辺の交 通拠点形成</b> と老朽商店街 の再生を図る。 ・ <b>ウォーターフロント</b> を 活かした <b>個性的な市街地 住宅の供給</b> 及び木造家 屋密集地の改善を図る。								「北九州市の再開発(H25)」 (若松 A 地区(若松地区 の活性化を図るための リーディングプロジェクト として、 <b>久岐の浜ニュー タウンと響灘開発等との 連携</b> を図る、海に開 かれた街づくり))	・響灘開 発(コンテナターミナル、 エコタウン事業、バイオ マス関連産業拠点、未 利用エネルギー活用等) ・若戸大橋、トンネルの 無料化

▼ 上位計画等における各拠点の位置づけ③

	上位計画				関連計画										今後の動向 に関する プロジェクト
	「元気発進！ 北九州」プラン (H20.12) (H25 改定)	北九州市都市計画マスタープラン		都市計画区域 マスタープラン	北九州市 都市再開発の方針 (H13)	中心市街地活性化基本計画 (新)	中心市街地活性化基本計画 (旧)					都市再生整備計画	個別計画等		
		全体構想 「将来都市 構造」	地域別構想「目標とする都市の構 造」より	(H23.4.25 告示)			対象	集積 要件	趨勢 要件	広域 効果 要件	位置づけ				
八幡・東田	<p>・広域観光施設や文化施設などの観光資源を生かし、多くの人が訪れ、楽しみ、学ぶことができるまち。</p>	地域拠点	<p>・行政、商業、医療などの生活支援施設や文化・交流施設の集積を維持・強化し、地域生活の中心としての拠点機能を高める。 ・「八幡東田総合開発」区域を次世代産業拠点と位置づけ、情報産業等の集積を進める。 ・東田地区を広域観光拠点と位置づける。</p>	広域拠点	地区拠点	<p>・東田地区を「新創造都市拠点」として開発を進めるとともに、八幡駅前再開発、既存商店街の活性化、市街地住宅の供給や環境改善を図る。</p>		○	○	○	○		<p>[八幡駅前地区] ・子供から高齢者まで他世代が、安心して暮らせるまちづくりを推進 ・市の基幹医療施設である市立八幡病院を始め、図書館、市民会館、音楽ホール、JICA(国際協力機構)、大学等が立地する医療・文化および国際交流の拠点地区 [八幡地区] ・環境首都を担う先進モデル地区としての整備を推進 ・観光・文化施設の集積・強化を図り、環境・観光・文化が誘導したまち</p>	<p>「北九州市の再開発(H25)」 (八幡駅前地区(魅力ある街区の形成、良好な都市住宅の供給、都市機能の集積)) 「東田土地区画整理事業のあゆみ(H14)」 (大規模な遊休地の有効活用、洞海湾産業・住宅コンプレックスゾーンの拠点。JRの移設と新駅の設置や自動車専用道路の乗入れ等のほか、スペースワールド、ステーションプラザ、スポーツコンベンション、フェスティブマーケットプレイス、商業・業務施設及び住宅などを設置し、本市全体の活性化に寄与)</p>	<p>・北九州スマートコミュニティ創造事業 ・八幡東田グリーンングリッド事業</p>
折尾	<p>・学園都市としての魅力あるまちづくり。 ・北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい交通拠点(広域拠点としての再構築)</p>	地域拠点	<p>地域生活拠点として、地域の実情に応じた機能を集積し、地域生活の中心としての拠点形成を図る。</p>	広域拠点	地区拠点	<p>・学園都市の玄関口、また、遠賀・直方地域を含めた広域複合拠点として、駅前交通・商業・サービス機能の強化・拡充を図る。 ・基盤整備と併せて、住工混在、木造家屋密集地を改善し、快適な居住環境の形成を図る。</p>		○	○	○	-		<p>[折尾地区] ・遠賀郡・中間市を含む北九州西部都市圏の中心地。 ・大学・高校等の立地が進み(3大学、2短大、5高校)、平成22年時点で、学生数約10,000人の学園都市。 ・学術・研究都市地区における関係者(学生、教員、研究者等約2,600名)の多くを迎える玄関口。</p>	<p>「北九州市の再開発(H25)」 (折尾駅前地区(学研都市にふさわしい駅前広場の充実、折尾地区市街地の中核として駅前商店街の近代化)) 「北九州市の土地区画整理2013(H25)」 折尾地区土地区画整理事業(遠賀地区や中間市を含めた広域的な中心核として、また学研都市の魅力ある玄関口にふさわしいまちに再構築)</p>	<p>・折尾地区総合整備事業</p>
八幡南	<p>・長崎街道の歴史と文化を活用したまちづくりに取り組むことで、新たなまちの魅力とにぎわいを創出</p>		<p>・地域生活拠点として、地域の実情に応じた機能を集積し、地域生活の中心としての拠点形成を図る。 ・八幡南生活支援拠点では、商業、業務などの生活支援施設の立地・集積を図るとともに、若い世代から高齢者まで多くの人々にとって、便利で快適な生活空間の形成を図ります。</p>	-											
戸畑	<p>・福祉施設の集積や先駆的な取組を活かし、福祉機能が充実した福祉のシンボルタウン。 ・コンパクトな地理的特性を生かし、CO2削減に向けた環境配慮型のまちづくり。</p>	地域拠点	<p>・戸畑駅周辺から区役所にかけての区域は、特に行政、商業、業務、医療、その他生活支援機能、文化・交流機能などの集積を維持・強化する戸畑地域拠点として位置づけ、地域生活の中心としての拠点形成を図る。</p>	広域拠点	地区拠点	<p>・戸畑区の中心核として駅を中心とした交通・商業・業務・文化機能の複合拠点の形成を図る。 ・行政サービス拠点の再編を図る。 ・木造家屋密集、住工混在の解消を図るとともに、洞海湾側は、ウォーターフロント等の魅力を活かした快適な居住環境の整備を促進する。</p>		○	○	○	○		<p>[戸畑地区] ・公共施設等が集積する戸畑区役所周辺の魅力を高め、安全・安心に、市民が集い賑わう交流のまちづくりを推進。 ・少子・高齢社会に対応した「街なか居住」の促進を図るとともに、公的不動産の有効活用の視点からは、旧区役所庁舎を活用した図書館建設、点在する老朽化施設の整理統合など、さらなる都市機能の向上と集積を図り、再構築を推進。</p>	<p>「北九州市の住宅市街地総合整備事業(H18)」 戸畑地区(都心居住促進の先導的プロジェクトとして、公的施設の建替えと、あわせて整備する福祉・医療施設等と連携した共同住宅建設による、都心居住の促進と都市機能の更新) 「戸畑区まちづくり計画(H27)」 (福祉のシンボルタウン、環境配慮型のまちづくりと生活利便性の向上、環境にやさしく健康的で安らぎと潤いのあるまち、「文教」のまちにふさわしい質が高く魅力あふれるまち)</p>	<p>・若戸大橋、トンネルの無料化</p>
東折尾		地域拠点	<p>・JR陣原駅周辺では、身近な地域のための集客施設の立地を誘導するなど、都市機能の集積を図り、利便性の高い生活空間の形成を図ります。</p>	拠点	地区拠点										

▼ 上位計画等における各拠点の位置づけ④

	上位計画					関連計画							今後の動向 に関する プロジェクト		
	元気発進 北九州プラン (H20.12) (H25 改定)	北九州市都市計画マスタープラン		都市計画区域 マスタープラン		北九州市 都市再開発の方針 (H13)	中心市街地活性化基本計画 (新)	中心市街地活性化基本計画 (旧)						都市再生整備計画	個別計画等
		全体構想 「将来都市 構造」	地域別構想「目標とする都市の構 造」より		(H23.4.25 告示)			対象	集積 要件	趨勢 要件	広域 効果 要件	位置づけ			
上葛原		-	・商業・業務施設や生活支援機能 などの集積と住宅の導入による土 地の有効利用を促進する。(方針 図凡例より読み取り)		拠点										
二島		-	・生活関連の商業やサービス業な どによる土地利用を誘導する。(方 針図凡例より読み取り)		拠点										
学術研究都市	研究・ 開発拠点 ・住民主体の地域づく り	-	・響灘東部地区及び北九州学術 研究都市を次世代産業拠点として 位置づけ、北九州市の明日を支え る新しい産業の集積を進める。 ・北九州学術研究都市を、新しい 産業や地域産業の高度化を図る 研究・開発拠点として位置づけ、 次世代産業の知的基盤となる研 究・教育機関の集積を進める。		拠点	研究・ 開発拠点								「パンフレット(H27)」 (周辺の自然環境、都市環境を活かしながら、先端技 術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅地の 供給を同時に行う複合的まちづくり)	・次世代自 動車産業拠 点化
永犬丸・三ヶ森		-	・永犬丸・三ヶ森周辺では、身近な 地域のための集客施設の立地を 誘導するなど、都市機能の集積を 図り、利便性の高い生活空間の形 成を図ります。		拠点										

2) 将来のまちづくりの方向性と期待される役割(案)

「元気発進！北九州」プランをはじめとした上位・関連計画における各拠点候補の位置づけ等を踏まえると、将来のまちづくりの方向性や期待される役割は下表のようになります。

▼ 将来のまちづくりの方向性と期待される役割①

	これまでのまちづくりの方向性	拠点性の向上要因	将来のまちづくりの方向性(案)	期待される役割(案)							拠点としての階層
				高次都市機能※							
				業務	商業	医療	教育・文化	広域観光	行政	交通結節	
小倉	<ul style="list-style-type: none"> <li>200万人を有する北九州都市圏の中核であり、活力と魅力ある北九州の都心</li> <li>北九州市の国際交流を先導する拠点</li> <li>圏域全体の発展をリードする拠点</li> <li>にぎわいを創出し、集客交流産業の活性化の成功事例を市内他地域へ波及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルMICE強化都市指定に伴う国と一体となった施策の展開</li> <li>小倉駅新幹線口におけるスタジアムの整備</li> <li>都心集客アクションプランに基づくソフト面での施策展開</li> </ul>	<p>【北九州都市圏の中核として、国内他地域や国外も見据えた広域交流拠点として、高次都市機能が複合的に集約されたにぎわい・活力のあるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>200万人を有する北九州都市圏の中核</li> <li>にぎわい・活力を創出し、北九州市ならびに北九州都市圏の発展を牽引</li> <li>MICE等による国内外をも対象とした拠点</li> </ul>	○	○	○	○	○	○	○	都心・副都心(都心)
黒崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠賀・中間地域を含む北九州都市圏西部の中核として小倉都心地区と対極をなす</li> <li>北九州西部都市圏の広域ニーズに対応した高次な都市機能を提供</li> <li>広域からの利便性のため、高次な交通結節機能や交通ネットワークを形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒崎バイパスの開通による慢性的な交通渋滞の緩和、公共交通の定時性の向上</li> <li>黒崎駅における南北自由通路の整備</li> </ul>	<p>【北九州都市圏西部地域を対象とする高次都市機能が集約された広域交流拠点として、居住や生活・文化が複合したまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小倉都心地区を補完する北九州都市圏西部中核</li> <li>北九州都市圏西部中核としての広域ニーズに対応した高次都市機能を提供</li> <li>公共交通でも利用しやすいまちづくり</li> </ul>	○	○	○	○		○	○	都心・副都心(副都心)
門司港	<ul style="list-style-type: none"> <li>港町としての歴史とウォーターフロントを活かした広域観光拠点</li> <li>港町としての商業業務機能の集積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設再配置に向けた先導地区</li> <li>広域観光拠点としての交流人口需要</li> </ul>	<p>【『観光』と『まちづくり』が一体となった、港町としての個性あふれるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史とウォーターフロントを活かした広域観光拠点</li> <li>港町としての商業業務地</li> <li>公共施設再配置による集約型の都市構造形成にむけた先導地区</li> </ul>	○ (港湾)	○	○		○	○		地域拠点
門司	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な世代が住む新しいまちと既存市街地が一体となったまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設再配置に向けた先導地区</li> <li>海峡観光としての交流人口需要</li> <li>関門地域の結節点(鉄軌道)</li> <li>貨物ターミナル駅</li> <li>西鉄バスとJRとの交通結節(産業拠点である新門司地区との連携)</li> </ul>	<p>【多様な世代が住む新しいまちと既存市街地が一体となった、関門地域の鉄道結節点や海峡景観を活かしたまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業による新たな魅力や、本州との鉄道結節点としての特性を生かしたまちづくり</li> <li>公共施設再配置による集約型の都市構造形成にむけた先導地区</li> </ul>		○			○			地域拠点
城野	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境未来都市にふさわしいまちづくり</li> <li>交通の拠点性を活かしたまちづくり</li> <li>都心を支える地区</li> <li>職住近接型の市街地住宅の供給</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>城野ゼロカーボン先進街区としての整備</li> <li>公共施設・医療施設の集積(図書館・療育センター等)</li> </ul>	<p>【城野ゼロカーボン先進街区や公共施設、医療施設の集積を活かした、環境未来都市にふさわしいまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境未来都市を先導するゼロカーボンまちづくり</li> <li>都心の隣接部における職住近接型の居住地</li> </ul>		○	○					地域拠点
徳力・守恒	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業、業務、その他生活支援機能、文化・交流機能などの集積を維持・強化する生活支援拠点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療福祉拠点の形成[UR(徳力・志徳)]</li> </ul>	<p>【子育てし易く高齢化社会にも対応した、持続可能で利便性の高い住宅市街地としてのまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に整備された大規模住宅団地を中心としたまちづくり</li> <li>高齢化社会に対応した福祉のまちづくり</li> </ul>			○	○				地域拠点

※高次都市機能のイメージ

- 業務：本市内に本社機能を置く企業の本店、全国展開がなされる企業の支店が多く立地しオフィス街を形成。
- 商業：特定大規模集客施設(延床面積10,000㎡)が立地。(都市計画区域マスタープランにおける広域拠点の有無で判断)
- 医療：高次の医療が受けられる医療施設が立地。(第2次救急指定病院以上が存在するかで判断。城野・下曽根については、広域拠点の範囲に近接して病院の移転立地がなされることから対象とした)
- 教育・文化：大学・短大等が立地、市外や国外からの利用も想定される会議施設、文化施設などが立地。
- 観光：市外からの入込が多い観光施設などが立地。
- 行政：区役所が立地。
- 交通機能：多交通モード間での交通結節が可能。

▼ 将来のまちづくりの方向性と期待される役割②

	これまでのまちづくりの方向性	拠点性の向上要因	将来のまちづくりの方向性(案)	期待される役割(案)							拠点としての階層
				高次都市機能※							
				業務	商業	医療	教育・文化	広域観光	行政	交通結節	
下曽根	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州市南東部の都市核</li> <li>交通の拠点性を活かした便利で暮らしやすいまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州空港跡地産業団地からの交通結節</li> <li>九州労災病院からの交通結節</li> <li>西鉄バスと JR との交通結節（吉田、貫地区等の住宅団地との連携）</li> </ul>	<p>【北九州空港産業団地等からの交通拠点性を生かした、便利で暮らしやすいまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市南東部の都市核としての機能集積</li> <li>後背に位置する産業団地や住宅団地との交通拠点としてのニーズに対応したまちづくり</li> </ul>		○	○					地域拠点
若松	<ul style="list-style-type: none"> <li>若松区を中心核として、商業・業務機能を中心とした交通拠点形成</li> <li>若松地区の活性化を図るためのプロジェクトである久岐の浜ニュータウンと響灘開発等と連携したまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若戸大橋、トンネルの無料化</li> <li>響灘スマートインダストリー</li> <li>風力発電産業アジア総合拠点</li> <li>北九州エコタウン事業</li> <li>若松南海岸の景観観光資源</li> <li>戸畑地区への交通結節点</li> </ul>	<p>【若戸大橋/トンネル無料化や背後の響灘地区の新たな産業拠点形成による新たな活力を取り込み、歴史や景観を生かしたまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>響灘地区の産業開発に伴う居住ニーズ等の増加に対応したまちづくり</li> <li>戸畑地区と連携したまちづくり</li> </ul>		○				○		地域拠点
八幡・東田	<ul style="list-style-type: none"> <li>八幡地区：広域医療（八幡病院）および国際交流の拠点</li> <li>東田地区：広域文化施設、新創造都市拠点、環境首都を担う先進モデル地区等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州スマートコミュニティ創造事業</li> </ul>	<p>【産業拠点としての歴史も生かしつつ、新しい北九州市の個性を育む、過去と未来を生かしたまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域医療、広域観光、国際交流の拠点としてのまちづくり</li> <li>環境首都としての先進モデル地区としてのまちづくり</li> </ul>		○	○	○	○	○		地域拠点
折尾	<ul style="list-style-type: none"> <li>学園都市の玄関口</li> <li>遠賀地区や中間市を含めた広域的な中心核</li> <li>北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい交通拠点への再構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>折尾地区総合整備事業</li> </ul>	<p>【北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい学園都市としての個性を生かしたまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市西端における鉄道結節の要衝として、遠賀地区や中間市も対象としたまちづくり</li> <li>北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい交通拠点づくり</li> </ul>		○		○				地域拠点
八幡南	<ul style="list-style-type: none"> <li>長崎街道の歴史と文化を活用したまちづくり</li> <li>商業、業務などの生活支援施設の立地・集積</li> <li>若い世代から高齢者まで多くの人々にとって、便利で快適な生活空間の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木屋瀬景観重点整備地区</li> <li>筑豊電鉄の高機能化</li> </ul>	<p>【本市南西部における暮らしを支える拠点として、歴史・文化も活用したまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長崎街道の歴史と文化を活用したまちづくり</li> <li>広大な本市において、市城南西部における暮らしを支える便利で暮らしやすいまちづくり</li> </ul>						○		地域拠点
戸畑	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉のシンボルタウン</li> <li>駅を中心とした交通・商業・業務、文化機能の複合拠点</li> <li>文教のまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若戸大橋、トンネルの無料化</li> <li>若松地区への交通結節点</li> </ul>	<p>【質の高い福祉や文教環境、様々な機能の集積性を生かした魅力あふれるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉・文教地区としてのイメージを生かしたまちづくり</li> <li>既存の都市機能の集積性を生かしたまちづくり</li> </ul>		○	○				○	地域拠点

※高次都市機能のイメージ

業務：本市内に本社機能を置く企業の本店、全国展開がなされる企業の支店が多く立地しオフィス街を形成。

商業：特定大規模集客施設(延床面積 10,000 m<sup>2</sup>)が立地。(都市計画区域マスタープランにおける広域拠点の有無で判断)

医療：高次の医療が受けられる医療施設が立地。(第2次救急指定病院以上が存在するかで判断。城野・下曽根については、広域拠点の範囲に近接して病院の移転立地がなされることから対象とした)

教育・文化：大学・短大等が立地、市外や国外からの利用も想定される会議施設、文化施設などが立地。

観光：市外からの入込が多い観光施設などが立地。

行政：区役所が立地。

交通機能：多交通モード間での交通結節が可能。

▼ 将来のまちづくりの方向性と期待される役割③

	これまでのまちづくりの方向性	拠点性の向上要因	将来のまちづくりの方向性(案)	期待される役割(案)							拠点としての階層	
				高次都市機能※								
				業務	商業	医療	教育・文化	広域観光	行政	交通結節		
<b>学術研究都市</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究・開発拠点</li> <li>響灘東部地区と一体となった次世代産業拠点</li> <li>教育・研究機関の集積と良好な住宅地の供給を同時に行う複合的まちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州学術研究都市</li> </ul>	<p>【高度な教育・研究機能と暮らしやすさが調和したまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究・拠点としてのまちづくり</li> <li>教育・研究機能と居住機能が調和したまちづくり</li> </ul>	○ (研究機関)			○					<b>地域拠点</b>
<b>東折尾</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒崎副都心に隣接し、交通利便性を活かしたまちづくり</li> <li>身近な地域のための集客施設の立地誘導等の都市機能の集積</li> <li>ごみ焼却排熱を利用した地域冷暖房施設による環境共生のまちづくり</li> </ul>		<p>【交通利便性を生かした環境共生のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通利便性を生かした暮らしやすいまちづくり</li> <li>地域冷暖房施設を生かした環境に優しいまちづくり</li> </ul>									<b>生活拠点</b>
<b>上葛原</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業施設などの生活支援機能の集積</li> </ul>		<p>【既存の生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商業施設などの機能集積を生かしたまちづくり</li> </ul>									<b>生活拠点</b>
<b>二島</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市営バスと JR との交通結節点</li> <li>生活関連の商業やサービス業などによる土地利用を誘導</li> </ul>		<p>【交通結節性と生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市営バスと JR との交通結節点における機能集積を生かしたまちづくり</li> </ul>									<b>生活拠点</b>
<b>永犬丸・三ヶ森</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域のための集客施設の立地誘導等の都市機能の集積</li> </ul>		<p>【既存の生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商業施設などの機能集積を生かしたまちづくり</li> </ul>									<b>生活拠点</b>

※高次都市機能のイメージ

業務：本市内に本社機能を置く企業の本店、全国展開がなされる企業の支店が多く立地しオフィス街を形成。

商業：特定大規模集客施設(延床面積 10,000 m<sup>2</sup>)が立地。(都市計画区域マスタープランにおける広域拠点の有無で判断)

医療：高次の医療が受けられる医療施設が立地。(第2次救急指定病院以上が存在するかで判断。城野・下曾根については、広域拠点の範囲に近接して病院の移転立地がなされることから対象とした)

教育・文化：大学・短大等が立地、市外や国外からの利用も想定される会議施設、文化施設などが立地。

観光：市外からの入込が多い観光施設などが立地。

行政：区役所が立地。

交通機能：多交通モード間での交通結節が可能。

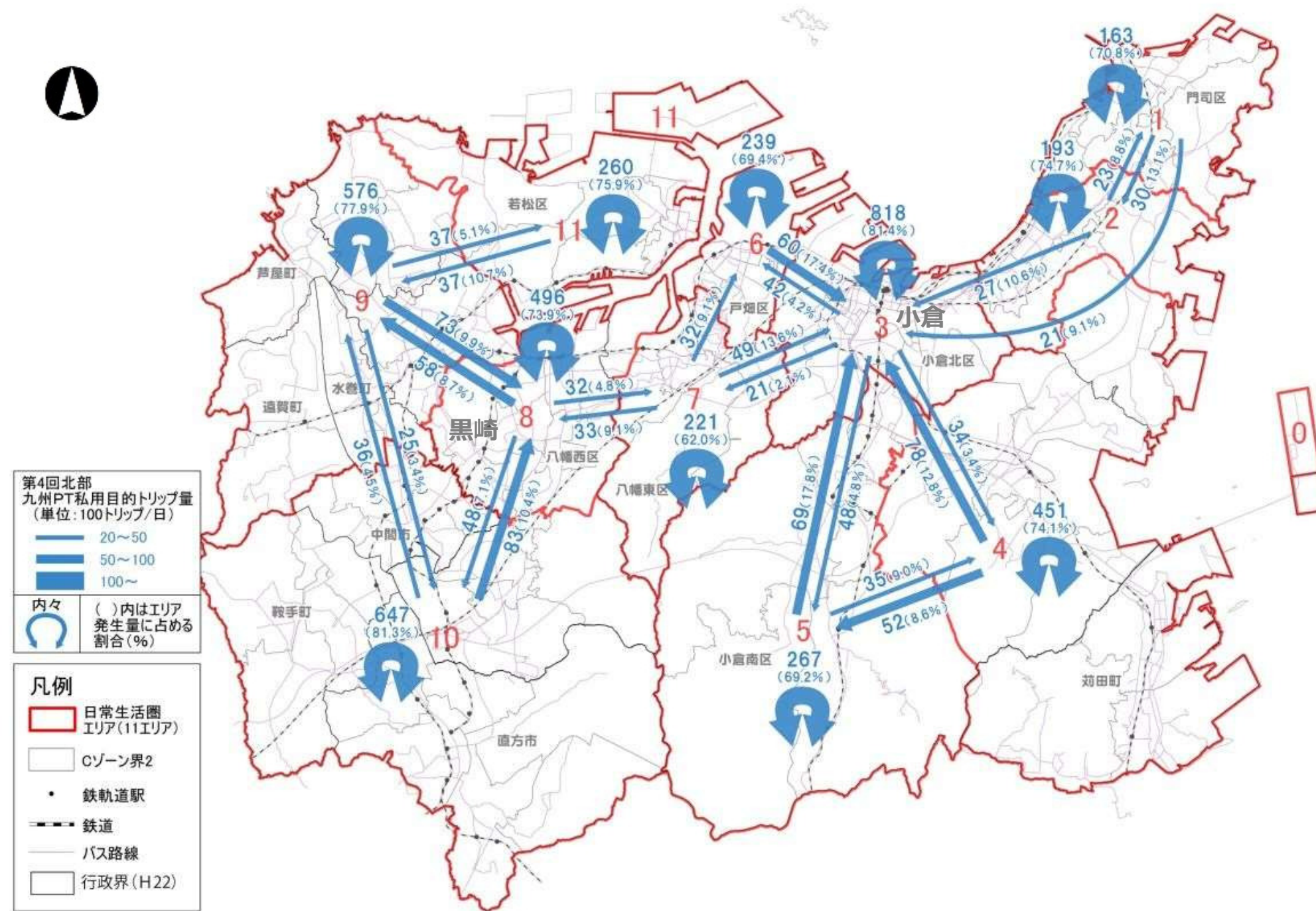


### 3) 各拠点間の階層性からみた特性の分析

第4回北部九州PT私用目的トリップ調査における私用目的トリップに着目し、日常生活圏の形成状況ならびに拠点間の繋がりは下図のように整理されます。

北九州市に関連する日常生活圏は、本市西部では遠賀郡、中間市、直方市、鞍手町を含み形成されるとともに、東南部では苅田町と一体的な生活圏が形成されています。

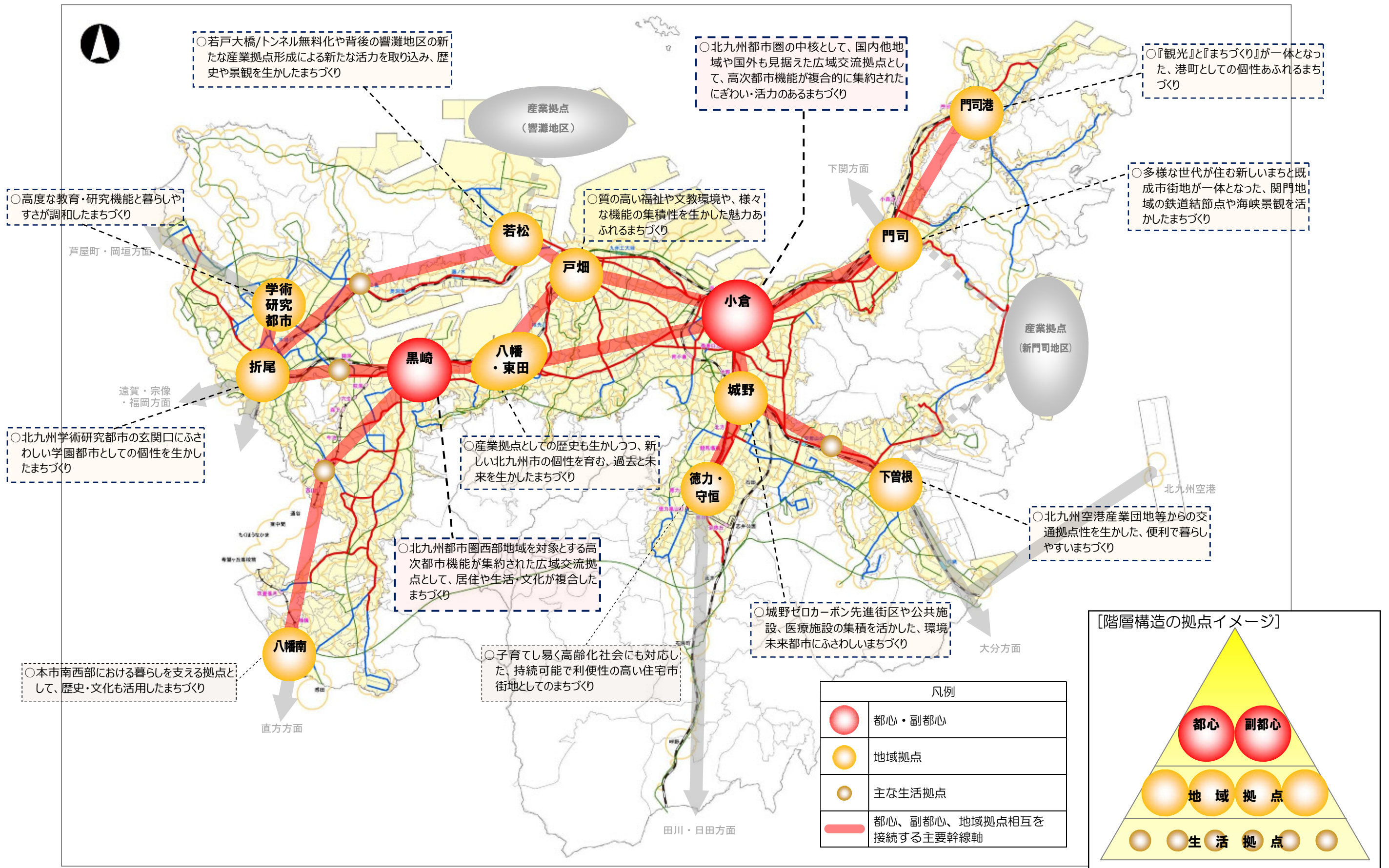
拠点間の繋がりに着目した場合については、八幡東区を境として、東側では小倉都心部を中心として集散、西側では黒崎副都心を中心として集散する階層性が形成されています。



SEQ	区域概要	日常生活圏エリア		拠点候補との対応 ※地域拠点以上
		中心点 (交通拠点)	人口(万人) H22 H52	
①	門司港	門司港駅	3.8 2.5	・門司港
②	門司大里	門司駅	5.6 4.0	・門司
③	小倉	小倉駅	18.2 15.0	・小倉 (・城野)
④	曾根・葛原	下曾根駅	12.5 10.6	・下曾根
⑤	城野・徳力	城野駅 守恒駅	10.1 8.9	・城野 ・徳力・守恒
⑥	戸畑	戸畑駅	6.1 4.6	・戸畑
⑦	八幡東	八幡駅	6.6 4.4	・八幡・東田
⑧	黒崎	黒崎駅	13.3 10.8	・黒崎
⑨	折尾・本城	折尾駅	11.1 9.8	・折尾 ・学術研究都市
⑩	香月・中間	木屋瀬駅 筑豊香月駅	4.7 3.8	・八幡南
⑪	若松・脇田	若松駅	5.8 4.1	・若松

4) 立地適正化計画における将来の拠点構造図(案)

- ここまでの内容を踏まえ、階層性を持った拠点構造(案)を以下のとおり設定します。



市街地ならびに交通軸が海と山地に挟まれた平地部に形成された特性により、小倉、黒崎を中心としながら、階層性を持った拠点が公共交通軸に沿ってネットワークする『階層拠点+交通網ストックを生かしたコンパクトな都市構造』を形成

